(仮称) 富谷市こども計画(素案)パブリックコメントに対する市の考え方

No.	計画素案の 掲載箇所	意見	回答
1	第4章	<p>・「子どもたちが遊べる公共施設の充実」 →ユートミヤの他にも新規建設してほしい。 具体的には、屋内型の裸足で体を動かして遊べる場とゆったりと遊べる場の備わった施設（山形寒河江のクラッピンのような施設はすごく充実していて素晴らしい） 場所は明石台周辺から徒歩圏内にあると子育て世帯が多いので交流の場になり助かる世帯も多いのではないか。 現状では車で仙台市ののびすくや山形県の公共の無料施設まで移動して遊び場に行っている子育て世帯も多いため、子どもにとって伸び伸び遊べる環境がほしい。 車移動では子連れで外出のハードルが高く家に籠りがちになるため、母子共にストレスを発散する機会を確保するのが難しい。 保育園併設の子育て支援室は毎日利用は園の行事との兼ね合いでなかなか難しく予定を確認して利用する必要があるため、ハードルが高い。 公民館の遊び場では現在の子ども数に広さが合っていない狭い、また玩具が少なく飽きてしまう。 「とみここ」を遊び場として利用できる日が限られているが、せっかく広くきれいな施設なので明石台周辺の子どもが遊べる場として毎日解放してほしい。</p>	<p>こどもが遊べる屋内型の遊び場を設けてほしいとのご要望はこれまでも多くの市民の皆様からお寄せいただいております。本市では、現在、成田公民館敷地内に富谷市複合図書館「ユートミヤ」の整備を進めています。この施設は、市民図書館、スイーツステーション、児童屋内遊戯施設が融合した複合施設とし、児童屋内遊戯施設では、身体を動かして遊べるアスレチック広場やネット遊具、乳幼児向けコーナーなどの設置を予定しています。また、屋外には、ふわふわドームを設置し、市民図書館の児童エリアとの行き来ができるなど、複合施設として滞在を楽しめるよう工夫し、整備を進めています。なお、整備にあたり、山形県内の屋内遊戯施設等を視察し参考にしています。現時点において、更なる児童遊戯施設の整備計画はございませんが、既存の、「公民館プレイルーム」や「とみや子育てサロン」などのこどもが遊べる施設についても、様々なニーズに対応できるよう、引き続き充実を図っていくこととしています。 また、「とみここ」につきましては、妊婦や乳幼児の健診、予防接種や離乳食教室などの事業を実施していることから、毎日、施設を開放することが難しい状況にありますが、月2回の「遊びのひろば」の開催のほか、健診や予防接種等の事業のない日には、「ペリっこルーム」を開放しています。今後も、可能な限り、地域の皆様にもご利用いただけるよう努めてまいります。</p>
2	第4章	<p>・1歳から保育園入所せずに自宅で保育する家庭に対しても支援金をいただくと、保育園の待機児童や保育士不足の対策になるのではないかと思います。なかなか市での支援は難しいのかなと思いますが、月5万円3歳の誕生日まで支援など。パートで復帰すると保育料で給料がほとんど消えてしまうので急いで子どもと離れずに過ごせる支援があれば、まだまだ母子の愛着形成の時期に安定した親子の関わりを確保できる世帯も増えるのではと母親同士の集まりでよく話題にあがります。どの自治体も非課税世帯への支援ばかりですが、これからの富谷の地域活性化にはこれからの若者世代はかせませません。子育て世帯の富谷市の人口増加にもつなげる支援をお願いします。</p>	<p>本市においては、4月初旬における保育施設の待機児童が、5年連続でゼロとなっており、令和7年4月初旬においても、待機児童ゼロとなる見込みとなっています。本市の現状としては、保育施設への入所申請数が、引き続き、増加している状況にあり、年度途中においては、0、1、2歳児の定員に空きがなく待機が出ていることから、仕事と子育てを両立するための支援はニーズが高いものと捉えています。また、母子の愛着形成の時期における親子の関わりを確保など、個々のご家庭が希望する形で、安心して子育てができる環境づくりは重要だと考えています。 このことから、本市としては、育児休業給付金の引き上げや育児時短就業給付金の創設など、国が育児休業制度の拡充を進めている状況を踏まえながら、未就園児家庭の支援を検討してまいります。</p>
3	第5章	<p>・「産後ケアについて」 産院での産後ケアは充実しているが、訪問型の産後ケアが足りず産後4ヶ月以降の家庭ケアが不足しているのではないかと。実際は4ヶ月以降の方が母親は大変です。産院での産後ケアは4ヶ月以降は子が見知りなどで利用が難しい。1歳半の離乳食完了期までの世帯対象で仙台市のような専門の資格（保育士や産後ドゥーラなど）を持った訪問型の育児ヘルパーを導入してほしい。離乳食が始まると食事作りも増えこれまで以上に本当に育児が大変です。仙台市では離乳食作りや大人の食事ストックを作ってもらうこともできるとも助かりました。またヘルパーさんと話すことで気分転換にもなりました。</p>	<p>母親の負担が増加する時期に、専門的なサポートを受けられる体制を整えることは、母子の心身の健康を保ち、安心して子育てができる環境づくりには大切であると考えており、本市においては令和6年度より出産後1年以内の方を対象とした産後ケア事業に居宅訪問型を追加、助産師による支援を実施しております。 また、お子様の発達や母親の状況の変化に対応した、より継続的なサポートが必要であることは、重要な課題として認識しておりますので、いただいたご意見を参考とさせていただき、訪問型育児ヘルパー制度の導入をはじめとする、より効果的な支援策を検討してまいります。</p>